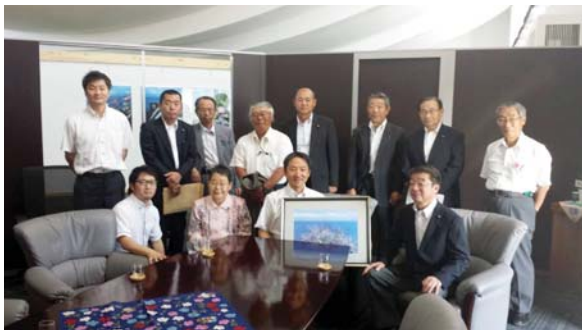
行政視察報告

Observation Report 報

【概要】



氷見市の本川祐治郎市長
(写真下段中央)
「市民との対話のあり方」
など大いに語り合った。

◆ 富山県氷見市「市民参加による学校施設の再利用」

富山県氷見市は平成２３年１０月から「旧市庁舎の耐震診断」及び「津波の避難場所に関する調査」を開始し、平成２４年３月には「震度６クラスで倒壊の危険」との耐震評定が出た。庁舎建物の耐震補強、旧市民病院の改修、旧県立高校の校舎棟の改修、同体育館の改修、同じ敷地内での新築等、新市庁舎の整備方法を検討した結果、統廃合により廃校となった県立高校の体育館を改修することに決定。市議会「市庁舎整備検討委員会」での議論を経て、平成２４年１０月に市役所設置条例と移転整備事業費が可決された。

体育館施設の市役所庁舎への再利用は、全国に類を見ない事例としてマスコミに大々的に取り上げられたが、前市長の国政転出に伴い現在の本川祐治郎市長に市政のバトンが渡された平成２５年４月以降、市民と行政が協働で新市庁舎について考える「新市庁舎デザインワークショップ」や、市民のアイデアで庁舎前の空間の植栽プランを検討する「花と緑のデザインを考えるネットワーク会議」が実施されたことにより、市民との対話の成果が新市庁舎の随所で形になったこともまた、全国的な新たなモデルとして大きく注目されるべき点と言えるだろう。

◆ 石川県金沢市「広域観光の戦略とまちづくり」

現在の長野新幹線は来春３月に金沢まで延伸し、東京～金沢間の移動時間は２時間半に短縮される。中部圏・北陸圏の広域観光面にも大きなインパクトとなることが予想され、我が富士見町においても力を入れている「八ヶ岳観光圏」の課題を探る観点から、北陸新幹線の開業に向けた意欲的なプロモーション活動を展開している金沢市を訪問し、調査を行った。

金沢市は現在、首都圏から上越新幹線と北陸本線を乗り継いで４時間かかるが、北陸新幹線の開業により移動時間が関西圏・中京圏と同程度となるため、周辺自治体を含め「首都圏誘客５００万人構想」の実現と、関西・中京からの５００万人と合わせた年間１０００万人の誘客を目標としている。「新幹線開業プロモーション・イベント実施計画」は平成２５年から２９年までのロング・プロジェクト事業であり、その実施計画は①首都圏における総合宣伝の展開 ②滞在型観光の促進 ③リピーターの拡大促進 ④都市間連携など広域観光の推進 ⑤開業記念イベント ⑥おもてなし環境の整備 ⑦ＩＣＴを活用した情報発信の充実―の７つの柱から組み立てられている。

新幹線沿線各都市の観光資源を有機的に結び付けて都市ブランドを高める取り組みや、新幹線効果を高速バスやマイカー（レンタカー）と組み合わせた北陸・飛騨の広域観光事業の推進、新幹線開業後の春に行われる７年に一度の「善光寺御開帳」を見据えた長野市との広域連携など、長期的且つ視野の広い多様なプロモーションから多くのヒントを学ぶことができた。

行政視察報告書の全文は富士見町議会ホームページに掲載しています。